



いきいき細谷っ子 NO.5 夏休み号

令和5年7月20日

下野市立細谷小学校長 坂本美保



元気に、安全に、 よい夏休みを過ごしましょう！



いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。42日間の長い夏休みを健康に安全に過ごすことを願っています。家庭生活が中心となる夏休みです。子どもたちには家族の一員としてしっかり生活してほしいと思います。有意義な夏休みになるよう、親子で夏休みの生活について、是非話し合ってください。

ここにきて猛暑日が続き、熱中症、夏風邪にも注意が必要です。生活のリズムを崩さず、暑さに負けずに生活しましょう。夏休みの生活については、「令和5年度**楽しい夏休み**（児童向け）」、「**夏休みを迎えるにあたって**（保護者向け）」及び「**学年だより**」をご確認ください。

元気に、楽しい夏休みを送り、一回り大きく、たくましくなった子どもたちの姿を楽しみにしています。

授業参観・親子学び合い講座「ネット時代の歩き方」 ・引き渡し訓練へのご協力ありがとうございました。

7月7日（金）大変暑い日でした。授業参観・親子学び合い講座・引き渡し訓練へのご協力ありがとうございました。

合同会社ロジカルキット下田太一氏による「親子学び合い講座『ネット時代の歩き方』」では、「インターネット」はいつでも、だれとでも、どこにいても、好きなことができるようになる非常に便利なものである反面、いつまでもゲームで遊び続けたり、勉強に集中できなったり、ずっとスマホが気になる、いわゆる依存症になったりする危険性を学びました。

今は、自分のスマホを持たない子どもたちも、いつかは持つようになります。また、スマホ・インターネットがなかった時代には戻れません。学校でも、タブレット端末を使っています。「便利がいい場合も悪い場合もあるということ」、「悪い習慣を身に付けてしまう残念な使い方、生活がよくなる幸せな使い方もあること」、「家の人に連絡のできる安心のための道具であると同時に、知らない人にも簡単につながれるものであること」。心しておかなければと思います。配付資料もご確認いただき、是非ご家庭で話し合ったり、約束をしたりして下さるようお願いいたします。

引き渡し訓練の後、第2回目の学校運営協議会も実施しました。授業や親子学び合い講座の様子を参観して下さった学校運営協議会委員の皆様からは、感染症の心配をせずに児童も保護者も集まって様々な学習活動をしている姿が見られたこと、子どもたちが生き生きと学び、先生と児童の距離が近いこと、これらは小規模特認校の細谷小学校ならではの「よさ」であるということが話題になりました。



着衣泳～水辺の安全教室～

7月14日（金）下野市B&G海洋センター職員の方から着衣泳を学びました。着衣泳とは、衣服を着て泳ぐのではなく、万一水難事故に遭ってしまった時に、とにかく水に浮くこと、浮いて助けを待つということです。身体の2%を水上に出す=鼻と口を水上に出すと浮くことを教わり、大の字になって浮く練習をしました。同日、下野警察署から水難事故防止のお知らせが届きました。昨年度、栃木県内では11件の水難事故が起きているそうです。海や河川でのレジャーを安全に過ごしてほしいと思います。

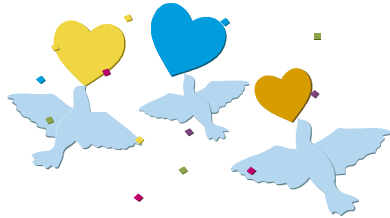


社会を明るくする運動 講演会で



「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

下野市では、7月1日(土)に、「誰も置き去りにしない『居場所』の力」と題し、西野博之氏の講演会がありました。西野博之氏は、1986年より不登校児童・生徒や高校を中退した若者の居場所づくりにかかわり、1991年川崎市にフリースペースたまりばを開設し、不登校児童・生徒や引きこもり傾向にある若者たち、さまざまな障がいのある人たちとともに地域で育ちあう場をつくり続けている方です。



印象に残る言葉が
数多くありました。

「子どもはだんだんと人間になる
のではなく、すでに人間である。生
まれながら一人の人間であり、
権利の主体である。」

「遊びは子どもの主食です。
遊ぶことが生きること。」

「安心して失敗できる環境。
できないことを受け入れる。」

「ケガと弁当 自分持ち。
自分の責任で自由に遊ぶ。
自分がやらかしたことは
自分で引き受ける。」

そして川崎市で子どもの権利条約をつくり、条例報告市民集会の時に、子どもたちが次の言葉を発表したそうです。

「まず、おとなが幸せにいてください。
おとなが幸せじゃないのに子どもだけ幸せにはなれません。
おとなが幸せでないと、子どもに虐待とか体罰とかが起きます。
条例に"子どもは愛情と理解をもって育まれる"とありますが、
まず、家庭や学校、地域の中で、おとなが幸せでいてほしいのです。
子どもはそういう中で、安心して生きることができます。」

子どもの権利条約子ども委員会のまとめ
(2001年3月24日 条例報告市民集会)



「おなか元気教室」～ヤクルト出前授業～

7月19日(水)学校保健委員会で、学校薬剤師 増山 仁先生をお迎えし両毛ヤクルト販売株式会社「おなか元気教室」を実施しました。「早ね、早おき、朝ごはん、朝ウンチ」のテーマでの熊田 圭氏によるお話は、夏休みの健康管理にもぴったりです。皆、腸の仕組みや働きにびっくりしながら、話を聞いていました。どんな話だったか、是非お子さんに聞いてみてください。

- ①食べ物の消化・吸収と排便を担うおなか(腸)のしくみ
- ②いいウンチを出すための生活習慣
- ③ウンチチェックの必要 ウンチの状態から、おなか(腸)にすみつく細菌とおなか(腸)の健康について

おなかをこわすとおなかが痛くて苦しいだけではなく、免疫力が下がって感染症や風邪など病気になりやすくなることを知りました。

2～3日に1回でもいいので、決まった時間にウンチをする。そのために早ね、早おきをして、朝ごはんをしっかり食べて腸を刺激し、ウンチを出すことだそうです。習慣がつけられるのに40日くらいという説もあります。ちょうど夏休みの期間です。夏休み、元気によい習慣で過ごしてくださいね。

